町村新報

發行日　毎月二回　十五日卅日
編輯兼印刷發行人　酒井秀吉
發行所　福島縣石城郡磐崎村大字下湯長谷勝善三十八番地　町村新報社
定價　一部金十錢　一ケ月金二拾錢
廣告料　五號活字十二字詰　一行金二十錢　別色刷　四十錢

人口問題

久田狂水

經濟學から見れば、景氣不景氣は、或期間を以て、開期的に循環するとされて居る、今のやうに不景氣になると消費の節約から、漸次に各自の懐中に幾分つゝの畜積が出來る、物價は安くなる、是迄不自由を忍んで來たが、幾分つゝ各自の慾望が頭を擡げて來る

◈

それが幾萬幾千万人となると一圓や二圓つゝでも大變な金高になる世界の人間が少しつゝ褌をゆるめて來ると金融はだん〳〵圓滑になる、融通金額は多大に上る知らず識らず、物質の需要が多くなるのは、目に見えて來る

◈

生産者は是迄の人員で間に合はなくなる、資本も殖やす、ドン〳〵物價は高くなる、物惑的投機的に儲けようと多くの人々が買付ける假需要も大量になる、需給の均衡がとれず、益々諸物價の騰貴を促がし、世は將に好況時代を現實に表面化して來る

◈

今は其沈衰時代で、陰の極は陽の始まりとなり遠からず、好景氣に向ふべき曙光が見え出すのも余り遠い事ではないと思ふ

◈

然し今後如何に好況時代になるといへども、失業問題は消え失せない、かの米國の好況時代にすら失業問題は叫ばれて居る、昔の樣に失業と好況と比例して居るとは限らない、今後あらゆる方面に色々な問題の基本をなすものは人口問題である、全世界はこの人口問題を完全に理想的に解決する時こそ、人類の最も幸福なるべき時である

◈

今や人口問題は各國〳〵斗のものでなく、國際的に之を解決すべきものである

◈

マルサスは廿五年毎に倍加するといつて居るが、第十九世紀の初めに全世界の人口は約八億五千万人あつたそして一世紀の後には十七億になつて居る、これは白人種が八十年目に倍となり、黃人種は六十年目に倍加した勘定になる

◈

世界の面積は約八百五十万方里の限りある土地で、幾人迄收容し得るか、其最限度即ち飽和点は幾らかは蓋し興味ある事であろう、今の處是は各人各樣の見解を下して居るが無制限に人間が生存して居るものとは誰も考へぬ處である

◈

或人は食糧より見て、世界の食物は五十二億人分と云ふ。或は温帶地、熱帶地別の飽和点を百二十年後の八十億と九十億の間にあるといふ

◈

何れにしても一年一千萬乃至二千萬人つゝ増加し今後百二十年には全世界に人口の滿員を來すと云はれて居る

◈

或は米國人の生活標準によれば　二十三億余
獨乙人の生活標準によれば　五十六億余
日本人の生活標準によれば　二百四十億余
と言はれる、さすれば我が國の生活基準は世界中最低位にある譯である

◈

然し世界中には、饑饉があり、傳染病、流行病、あり戰爭があり、淘汰の數も少くない、されど年々人口増加がやまない

◈

我が國の人口は、確實な事は不明だが、徳川時代には大体二千五六百万人を上下して居た樣である、それが急激に明治時代に入つて、増加し昭和二年には六千余萬人に達して居る、昔時斯の如く、人口増加を見なかつたのは何に因るか、昔の樣な封建時代にあつては各藩〳〵小さい國々をなして居た關係上、澤山の子供を産んでは生活が出來なくなる、それで余り多くの子を作る事を恥としてゐた、それで名前迄、モウこれでお仕舞ひだといつて『おとめ』『お末』『留吉』なんぞの名をつけたものだ、其から生れたものは大低、なし塲で處分されたものである。今六十歲前後の人には、この仲間入りをしたのが死にきれず、再びしゃ婆へ出て來たなど實例を聞く事があるあまり殖えなかつた理由は此處にある

◈

現今我が國は年々六十万以上の塲加を示して居る、海外渡航者は如何に奬勵しても其數取りにも當らぬ、今後増々人口の増加、生活難失業苦は財界の好況不況に係らず吾人の頭を腦ます元になる

◈

加之我國の乳兒の死亡の多いのも世界一である、年々体質の低下も著名である、只々粗製濫造である、又壽命に於ても、四十二、三歲といふ短命人である、是等は一般に生活程度が低く子供が生れても、養育する事が充分でない、又弱い者が無意味に弱い子を産むといふ事に基因する

◈

優生遺傳や、産兒制限が八釜敷論議されて來て居るが社會問題として、將來法律的にも改變せられる事と思惟せられる

◈

現在のまゝ我國の人口は如何に推移するかといふに、種々なる關係上、人間の増加率は幾分つゝ遞下する傾向にある、人口食糧調査會の參考資料には

大正十五年始	五千九百万余
昭和五年始	六千三百万余
仝　十年始	六千六百万余
仝　廿年	七千六百万余
仝　卅年	八千六百万余

といふ推測になつて居る

◈

今マルサスの論ずる概畧を掲ぐる

人口は食糧によつて制限を受ける、そして人間も他の生物同様、食物より人間の増加の方が速いそれで社會に貧困者の出來るのは必然的である、然し貧困は社會の存續及發達に必要なものである、社會改革によつて、之を除去しやうとするのは無意義である、貧困は惡疫、疾病戰爭、飢餓、窮乏等のため、人口の増殖を阻げ、人口と食糧との平均を保たしめる、社會的罪惡、墮胎、子殺し、賣淫なども貧困同様の作用を人口増加の上に及ぼす、故に困貧や罪惡による社會に存する、自然的な人口制限によらずして人口を制限するには、結婚を拒否するか、晩婚を奬勵するか、或は禁慾生活を强制するかによつて之を達すべしと論じて居る

◈新マルサス聯盟の主張

一、人口は食糧以上に増加する

一、之を抑制するには積極的に生命を破壞する、即ち乳兒死亡の高率、兒殺し、戰爭、飢餓による生命の破壞
消極的には結婚しない、或は婚姻后子孫を制限する方法をとる

一、然しマルサスの如く獨身主義や、禁慾生活は性的罪惡や疾病の因となるから早婚も惡くない。

一、人口過剰は貧困、無智、罪惡、疾病の原因となるは確實だから産兒制限は避け難き事である

一、人口問題に關し深刻なる對論は社會に須要であるから刑法の制裁はよくない

以上である

◈

或人は我國の人口問題は資本主義的經濟を根本的に組織替えをせねば駄目だと云つて居る、即ち資本經濟が打破されねば、機械力の發達となり、勞働力の減退を來し失業者が多くなると論じて居る、然し原始時代に歸れといふも、あまりに文化に逆行した論である、

◈

或人は資本經濟のまゝでもよい、今日の生活難は人口の増加でなく、歐州大戰以后不景氣時代に入りて生活標準が下らず、國民の努力が乏しいからだと論じて居る、然し如何にもがいても力のやり場のない人がある事を考へねばなるまい

◈

要するに人口問題は今後に殘された要件で、よく〳〵研究對議すべきものと思ふ

社告

各方面よりの御進めにより毎月三十日發行の分に川柳、俳句、和歌を掲載する事になりました、毎月廿三日までに御投稿願いたい

川柳選者　久田狂水先生
俳句選者　成鷄庵頭季
和歌選者　編輯部一同

各種問答部開說

衛生　法律　兵事　其他一般

解答者
衛生　醫師　久田克位
法律　折笠利一
兵事　磐崎村兵事係　吉田正次
其他　編輯部一同

御問合せは紙上にて解答到します、紙上名隨意